

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200678		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム高岡美幸		
所在地	富山県高岡市美幸町1丁目4番47号		
自己評価作成日	平成29年3月25日	評価結果市町村受理日	平成29年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成29年4月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が日々穏やかに「笑顔」でお過ごしいただけるように努めています。また、入居者様に楽しんでいただけるよう、毎月県内外問わず、頻繁に色々な観光地などに外出しています。入居者様のご家族様にも、当ホームの活動を知っていただく為、定期的に行事に参加をして頂いています。職員に関しては、日々質の良い介護の提供ができるように、事業所として有給休暇100%取得を目指し、リフレッシュできる環境づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護事業を全国規模で展開する法人が経営母体である。企業理念に基づく事業所方針、ケアの方針は全職員が名刺判(4面)のものを携帯し、朝礼で唱和している。「普通の生活を当たり前」という観点を共有し、利用者一人ひとりの思いが叶えられるよう、また家族との触れ合いの機会を多く持てるよう、家族会や行事を通じた取り組みを重ねている。普段行けない場所への外出の機会も多く、県内外への遠出を楽しみ思い出をたくさん作っている。事業所研修は毎月実施され、運営や介護の基本を学び、ケアの方針に照らし合わせながら個々の思いに寄り添うケアに努めている。職員への無記名アンケート、個人面接、法人共通の家族アンケートなどは定期的に行われ、風通しのよい事業所を目指し、地域の祭りへの参加や毎月のボランティア来訪なども継続し、今年度は、事業所の夏祭りを開催し地域住民の招待を考えている。様々な取り組みが、開設後約1年の事業所で展開されている、明るく開放的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業としての運営理念、事業所の運営理念がある。企業の運営理念は毎日の朝礼で斉唱して、職員全員が理解して実践につなげるよう努めている。	企業理念を基本に、事業所理念、ケアの信条が示され、研修や会議で共有している。職員は名刺判(4面)の理念を携帯し、ケアの信条である「普通の生活を当たり前」を一人ひとりが意識し日々支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物に出掛け、地域の方と積極的に挨拶や会話を交わしている。また、去年は町内の夏祭りの参加や秋祭りには御神輿が来てくれたりと、地域との交流を広めている。	日々買い物等気軽に地域に出かけ、毎月ボランティアが来訪したり、町内の側溝掃除への参加など、地域との相互交流が行われている。今年は事業所の夏祭りに地域住民の参加を呼び掛け、交流を深める取り組みを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点では地域貢献は出来ていないが、今後は認知症相談会や介護予防運動などを開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及びご家族、自治会長、地域住民代表、地域包括センター職員、グループホーム職員が参加し、活動報告や事故報告、参加者からの意見や要望を話し合い、サービス向上に反映させるよう努めている。	家族代表、行政、地域の方等が参加し、隔月に開催。活動の様子を写真で伝え、事故報告、職員研修、資格取得について話し合うなど、会議内容は多岐に及んでいる。会議で、家族からの職員の顔と名前が一致しないという意見についての話し合いから、スタッフの顔写真掲示についての実現に至った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を高岡市高齢介護課の担当者に直接届けて内容を伝えたり、それ以外にも定期的に担当者との会合相談など行っている。	運営推進会議の議事録は行政の担当者と直接会って手渡ししている。その時点で、事業所運営に関する相談や取り組みの報告などを行い、顔を合わせた日常的なつながりを含め協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議等にて研修を行っている。2ヶ月毎にチェックシートを使いチェックしている。身体拘束排除マニュアルを作成し、日々のケアを行っている。防犯上、玄関の施錠は行っているが、お客様が外出したい時は、いつでも外に出られるようにしている。	事業所内研修において、『高齢者虐待と身体拘束』をしないケアについて学び、“身体拘束”を日常の支援の中で行っていないか、法人共通のチェックシートで確認している。さらに2ヶ月に一回「虐待・不適切なケア・身体拘束防止取り組み」強化週間を設け、拘束のないケアの実践に向けた取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等にて研修を行っている。また、2ヶ月毎にチェックシートを使いチェックしている。また、虐待防止マニュアルを作成し、日々のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修にて権利擁護に関する制度について学んでいる。現在は必要性がある対象者はいないが、今後必要な方がいたら制度を説明し、支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて書面にて説明を行い、ご家族の方にも一緒に重要事項説明書と契約書に目を通して頂いている。また、不明な点がある場合は、理解して頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、意見箱を設置している。また、ご家族が訪問された時に意見、要望を聞いている。また、法人として年に1回ご家族様アンケートを実施し、意見を反映させている。	法人として、年に一度家族アンケートを実施し、出された要望や意見を改善に活かす取り組みがある。また、面会時など、日常的な会話の中で出された意見は、申し送り時の話し合いや、ケア日報で共有し、運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月全体会議の場で意見を聞く機会を設けたり、2~3ヶ月に1度は個別に面談を行い、要望などを聞いている。法人としては、年に1回職員アンケートを実施し、意見を反映させている。	従業員満足度アンケート(無記名)を年1回実施し、率直な意見を聞き取り、運営に反映している。また、管理者との個人面談が3ヶ月に一度行われ、全体会やユニット会議でも自由に意見や提案を表出する機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、キャリアアップの基準を明確にしている。資格取得支援制度など、職員が向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を毎月行っている。また、定期的にエリア研修も行っている。外部研修など機会があれば参加をしている。資格取得支援制度もあり、資格取得を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他県エリアとの交流は行っている。他法人とは、研修会などで参加した時に意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が、安心して暮らせるように、入居される前後に本人の要望や困っていることを聞く時間を設けて信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経緯や、グループホームでの生活に対する不安や要望を時間をかけて伺い、ご家族が安心してサービスを利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族から要望や状況等の情報を集め、アセスメント表を作成し、ニーズの把握を行い必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれの得意分野(家事など)で力を発揮して頂いて、お互い協働しながら良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月毎にご家族を招いての行事開催などで、入居者様とホームで過ごす時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が住んでいた地域に職員と一緒に出掛けたり、面会に来られたご家族、知人などには継続的に来て頂き、ホームでゆっくり過ごせるようお茶などをお出しして支援をしている。	3カ月に一度、入居者と家族が共に過ごす機会を設け食事会をするなど絆を大切にした取り組みがある。元小学校教師だった入居者は教え子から同窓会招待があり、付き添いの出来ない家族に代わって事業所職員が同席するの付添いで出席を果たすなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、共通の話題や気の合う人同士で過ごせる時間を作れるように、職員が調整役となり、入居者様同士が良好な関係になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、ご家族様から連絡があれば相談に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と日々の会話を通して情報収集を行い、希望、意向を把握するように努めている。また、ご家族からも話を伺い、入居者様が何を望んでいるのかを把握し、ケアに反映させるよう努めている。	入居時に把握した思いや意向はアセスメント表で共有し、日々の関わる中での本人の希望はそのつど、介護記録に記載している。家族の思いや意向は、面会時やケアプラン説明時などにじっくりと話し合い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後なども、ご本人やご家族と会話を通して馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日々の行動や表情等から心身の状態を感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞き、介護計画に反映できるようにしている。また、カンファレンス、モニタリングで職員の意見も組み込み、主治医や看護師からも意見を聞き作成している。	入居者や家族の意向を基に作成した介護計画は3か月毎にモニタリングを行い見直している。モニタリングは全職員が実施し、担当者会議を経て、事前に把握した主治医や看護師の意見も反映するなど、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報やケース記録に個別に日々記録を記入している。記録は申し送り時や会議等で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院の送迎、買い物の代行等必要な支援には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度、地域の理美容師による訪問理美容サービスや、提携先協力医の訪問診療を利用されている。また、毎月ボランティアの方が来て下さり楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に応じて対応している。かかりつけ医に受診される時には、普段の様子などを看護師が記載し渡したり、職員が通院介助したりしている。受診は基本的にはご家族がされているが、無理な場合には職員が通院介助している。	入居時にかかりつけ医を選べることを伝え、約半数が協力医による月2回の往診を受けている。各自の主治医や専門医を受診する際は家族が同行しているが、必要に応じて職員が対応し、家族同行時には、文書書面で本人の常態情報を提供し、連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常にお客様の健康管理や状態の変化に応じた支援が行えるようにしている。看護師と介護職員は、申し送り等で情報を交換、共有し、体調変化の早期発見、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報共有を行っている。入院中も定期的に面会に行き、病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について、書面にて説明している。現時点では、重度化した方がいないのでご家族等と具体的な話はしていない。	「重度化した場合の対応にかかる指針」を有し、入居時に本人・家族に説明し、事業所の方針を共有し同意を得ている。重度化した際には家族や医師、職員で話し合い、看取り支援の方針を検討し個々に沿った対応に努めてくことを確認している。毎年『看取り介護』の研修も計画されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを作成し説明している。開設時に職員が普通救命講習を受講しており、初期対応の実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、災害対策のマニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。水害等の災害時の研修や避難訓練も行っている。現在、地域との協力体制を構築するため、運営推進会議を通して働き掛けている。	年2回火災訓練を行い、内1回は消防署員立ち合いの下、避難誘導等の訓練を実施。また水害対策訓練を行い、避難場所の中学校まで入居者と一緒に歩き時間を測った。今年度は、地域の防災訓練に事業所として参加を予定している。	訓練は運営推進会議で案内し、報告をしているが、避難訓練への地域住民や家族の参加や協力を依頼するなど、地域との協力体制づくりの検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内研修で、職員の意識向上を図っている。言葉遣いや声掛けなど接遇の研修を行い指導している。	事業所内研修として「プライバシー保護と権利擁護」を実施し、考え方を学んでいる。学びが活かされているかは法人で作成しているチェックシートで職員一人一人確認し、対応や言葉かけの振り返りを行っている。職員は、実践の中で気づきを得るよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、入居者様の思い、希望を聞き、その方の希望が出来る限り叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様から外出や買い物など希望があれば一緒に外出したりしている。日中のホーム内では、ご本人の希望やペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える衣類等はご本人に尋ね選んで頂いている。お化粧品などもご本人の意思でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。また、定期的にバイキング形式やお弁当形式にしたりしている。下膳や食器洗いなど、職員と一緒にすることもあ	基本の献立は、カロリーや栄養を考慮し法人の栄養士が作成している。が、事業所は、地域性や行事に沿った献立をそのつど考え、利用者は食事を楽しんでいる。新年会、誕生会、花見、夏祭り、家族会等々には、特別食を提供し入居者や家族と一緒に楽しみ味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回記録し、栄養バランスや水分量等を観察している。また、個々の好き嫌いを把握し、提供する食事量や形態を変更している。毎月体重測定を行い、個々への対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けをし、介助が必要な方は、職員が行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握している。また、その方の行動で推測し誘導を行ったり、時間毎の誘導、声掛けを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に応じた排泄の支援をしている。本人の行動をじっくりと細かく観察し、声かけや誘導をさりげなく行い、無理強いしない対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で牛乳やヨーグルト、食物繊維が豊富な食材を使うことにより、極力薬に頼らず自然な形での排便を促しているが、お客様によっては主治医の指示により薬による方法もとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、午前午後入浴できるようにしている。入浴拒否の方や身体状態の悪い時等は、清拭や足浴を行うように努めている。	毎日入浴できる環境を整えている。前日入れなかった場合は、別の日に、拒否があった場合は清拭や足浴で、など個々の思いや状態に合わせていつでも入れるよう、柔軟な体制を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方は、日中の活動を促しているが、そうでない方には、個々の判断で日中も休んで頂いている。室温の管理や、飲み物の提供なども行い、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合は、連絡ノートに説明を記入している。薬の情報を個人ファイルに綴じ、職員全員が把握できるようになっている。また、誤薬の無いように看護師、職員でチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野で力を発揮して頂けるよう、女性の方には家事や手芸など、男性の方にも掃除などをお願いし、感謝の意を伝えている。また、外食やドライブなどに出掛け、気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の馴染みの場所や希望に沿った地域に外出している。地域の祭りに出掛けたり、本人と相談して県内外の観光地に出掛けている。散歩などは希望があればすぐ外出出来るようにしている。	入居者の希望する場所への外出支援を行なっている。普段行けないような隣の観光地、水族館、航空博物館などへ、少人数で出かけ『久しぶりに来ることができた』などと喜ばれている。日々の買い物や散歩など、希望に沿って戸外に出かけることができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様によっては少額のお金を持っておられる方もいるが、基本的にはご家族よりお小遣いとしてお金を預かり、金庫で管理している。買い物に出掛けた時など、ご本人が欲しいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでもかけられるようにしている。また、ご家族及び本人からの希望で携帯電話を所持されている方もいて、使用方法を忘れてしまった場合などは、職員が手助けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、室温やテレビの音量なども配慮している。また、行事の写真の貼ったり、花などを飾り皆が楽しめる空間作りに取り組んでいる。	玄関周りには、手入れの行き届いた季節の鉢花が飾られ、来訪者を気持ちよく迎えている。室内は適切な温度や湿度、聞こえる音などに十分な配慮を行い、季節の花がリビングを明るくしているなど、入居者が穏やかに安心して過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士、くつろいで会話を楽しんだり、テレビを見ることもできるよう、ソファなどを置きどこでも会話ができるような環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、レクリエーションで制作した作品や、ご家族様から家で使っていた馴染みの家具や家族の写真などを持ってきて頂き居心地が良く過ごせるように工夫している。	居室内の家具の持込みや配置、壁面飾りなどは自由であり、事業所からはアパート感覚の考えで『どうぞ自由にお使いください。』のメッセージを伝えている。好みのタンスを置いたり、写真や本などが何気なくあったりとその人らしさを感じる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレなど、場所が分かりやすいように表示してある。また、居室内の家具などの配置は安全に生活ができるよう配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 愛の家グループホーム高岡美幸

作成日: 平成 29年 5月 12日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時における地域との協力体制が構築されていない。	事業所で行う避難訓練に地域の方にも参加をしていただく。	運営推進会議や地域交流の場で協力して頂けるよう働きかける。	12 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。